

# 青森県経済統計報告

令和5年4月28日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（令和5年4月1日現在）…………… 1

県人口	1,190,685人（対前月6,104人減少）
自然動態	1,294人減少（出生者数491人、死亡者数1,785人）
社会動態	4,810人減少（転入者数3,360人、転出者数8,170人）

## 2 本県の経済動向（令和5年2月・3月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。  
なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和5年4月期）をみると、前期から上昇し、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和5年2月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年=100）は、季節調整済指数が96.6で、前月比1.2%の上昇となり、2カ月連続で前月を上回った。また、原指数は86.2で、前年同月比3.3%の低下となり、10カ月連続で前年同月を下回った。 …… 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和5年2月の**定期給与**は223,260円で前年同月比0.4%増となった。 …… 3  
**総実労働時間**は140.7時間で前年同月比1.4%増、**所定外労働時間**は8.4時間で前年同月比8.7%減となった。  
・令和5年3月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.19倍となり、24カ月連続で1倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和5年3月の**青森市消費者物価指数**（令和2年=100）は、総合指数が105.4となり、前月比0.5%の上昇、前年同月比3.1%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は103.5となり、前月比0.8%の上昇、前年同月比4.1%の上昇となった。 …… 5
- (2-4) 個人消費 ・令和5年2月の**百貨店・スーパー販売額**は、138億円で全店舗ベースが前年同月比2.9%増となり、8カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.8%増となり、8カ月連続で前年同月を上回った。**※更新なし**  
・令和5年3月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は5,031台で、前年同月比19.6%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。  
・令和5年3月の主な観光施設の**観光入込客数**は、54万6千人で前年同月比84.3%増となり、12カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、17万人で前年同月比40.0%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。 …… 6
- (2-5) 建 設 ・令和5年2月の**新設住宅着工戸数**は179戸で、前年同月比15.6%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。**※更新なし**  
・令和5年3月の**公共工事請負金額**は120億8,500万円で前年同月比17.5%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。 …… 8
- (2-6) 企業倒産 令和5年3月の**企業倒産**は、件数は4件で前年同月比42.9%減となった。 …… 8  
負債総額は9億5,900万円で前年同月比183.7%増となった。

### （3）景気動向指数C I（令和5年2月分）…………… 9

先行指数	109.7（前月を1.4ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
一致指数	77.9（前月を1.1ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
遅行指数	95.5（前月を1.3ポイント下回り、2カ月連続で下降した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（令和5年4月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I	…58.5（前期比10.2ポイント上昇、2期ぶりに50を上回る）
3カ月後の景気の先行き判断D I	…62.4（現状判断D Iと比べ3.9ポイント上昇）

# 1 青森県の推計人口(令和5年4月1日現在)

## 【概況】

現在の本県推計人口は、1,190,685人で、対前月6,104人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が491人、死亡者数が1,785人で、1,294人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が3,360人、転出者数が8,170人で、4,810人の減少となった。

## 総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女								
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2.10.1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
4.4.1	1,209,012	569,766	639,246	-0.482%	-5,852	-1,252	525	1,777	-4,600	3,346	7,946
4.5.1	1,208,675	569,850	638,825	-0.028%	-337	-1,047	470	1,517	710	3,229	2,519
4.6.1	1,207,975	569,445	638,530	-0.058%	-700	-1,133	532	1,665	433	1,662	1,229
4.7.1	1,207,127	569,009	638,118	-0.070%	-848	-946	476	1,422	98	1,375	1,277
4.8.1	1,206,193	568,608	637,585	-0.077%	-934	-987	480	1,467	53	1,724	1,671
4.9.1	1,205,356	568,367	636,989	-0.069%	-837	-1,100	557	1,657	263	1,883	1,620
4.10.1	1,204,343	567,893	636,450	-0.084%	-1,013	-1,082	519	1,601	69	1,448	1,379
4.11.1	1,203,253	567,491	635,762	-0.091%	-1,090	-1,207	501	1,708	117	1,329	1,212
4.12.1	1,202,030	566,913	635,117	-0.102%	-1,223	-1,273	484	1,757	50	1,152	1,102
5.1.1	1,200,464	566,223	634,241	-0.130%	-1,566	-1,534	470	2,004	-32	1,074	1,106
5.2.1	1,198,490	565,310	633,180	-0.164%	-1,974	-1,634	498	2,132	-340	941	1,281
5.3.1	1,196,789	564,485	632,304	-0.142%	-1,701	-1,329	441	1,770	-372	977	1,349
5.4.1	1,190,685	561,430	629,255	-0.510%	-6,104	-1,294	491	1,785	-4,810	3,360	8,170

## 3月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平25.3	26.3	27.3	28.3	29.3	30.3	31.3	令2.3	3.3	4.3	5.3
自然動態	出生者数	704	745	737	743	665	617	597	561	584	525	491
	死亡者数	1,501	1,475	1,461	1,483	1,565	1,620	1,462	1,537	1,664	1,777	1,785
	自然増減数	-797	-730	-724	-740	-900	-1,003	-865	-976	-1,080	-1,252	-1,294
社会動態	県外からの転入者数	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993	3,686	3,410	3,634	3,583	3,346	3,360
	県外への転出者数	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339	9,367	9,183	8,722	8,102	7,946	8,170
	社会増減数	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,681	-5,773	-5,088	-4,519	-4,600	-4,810
増減数計		-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,684	-6,638	-6,064	-5,599	-5,852	-6,104

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

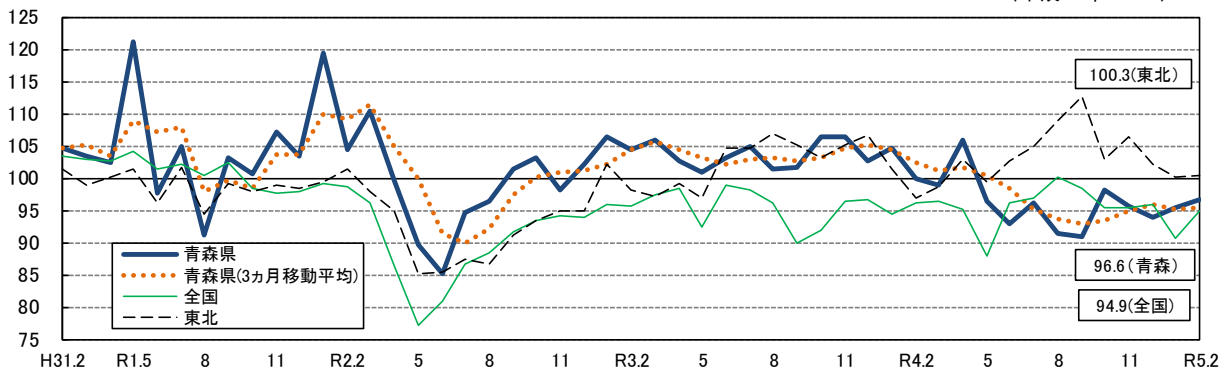
#### (2-1) 生産動向

令和5年2月の青森県鉱工業生産指数（平成27年=100）は、季節調整済指数が96.6で、前月比1.2%の上昇となり、2ヵ月連続で前月を上回った。また、原指数は86.2で、前年同月比3.3%の低下となり、10ヵ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、生産用機械工業、非鉄金属工業等が上昇に寄与した一方、食料品工業、電気機械工業、金属製品工業等が低下し、鉱工業全体では1.2%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年=100）



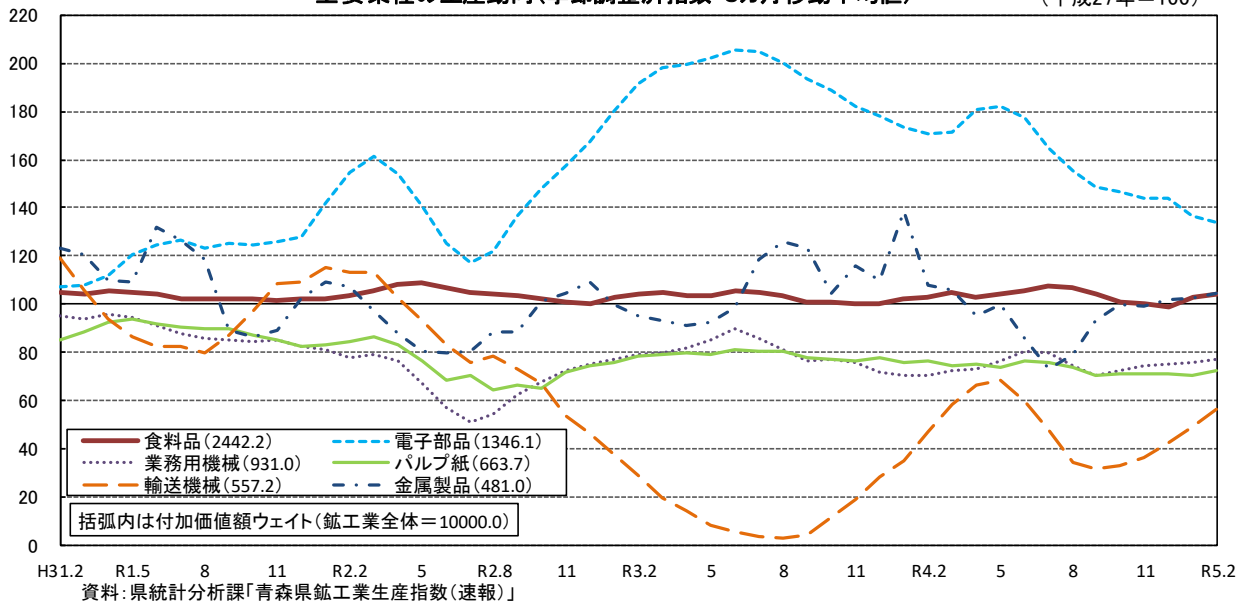
◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 1.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	228.2	166.0	食料品工業	-6.8	-73.2
生産用機械工業	252.8	97.6	電気機械工業	-15.8	-49.1
非鉄金属工業	15.3	20.2	金属製品工業	-16.5	-38.1
パルプ・紙・紙加工品工業	5.0	9.2	業務用機械工業	-5.3	-15.8
印刷業	8.4	8.3	輸送機械工業	-7.1	-9.2

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

（平成27年=100）



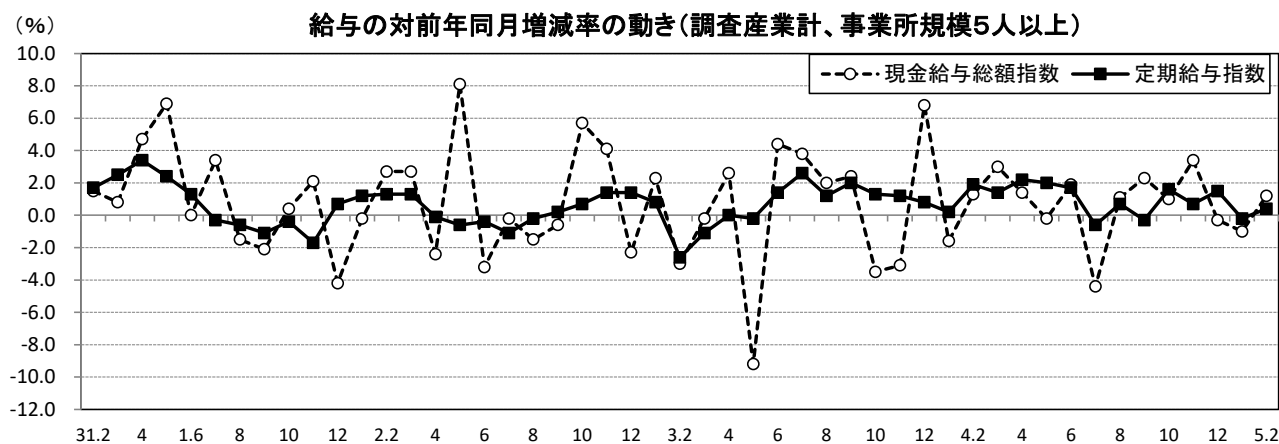
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和5年2月の定期給与は223,260円で、定期給与指数（令和2年=100）では100.4となり、前年同月比0.4%増と2カ月ぶりの増（現金給与総額227,190円、現金給与総額指数86.9、前年同月比1.2%増）となった。

総実労働時間は140.7時間で、総実労働時間指数は95.5となり、前年同月比1.4%増と14カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は8.4時間で、所定外労働時間指数は89.4となり、前年同月比8.7%減と9カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

### 給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

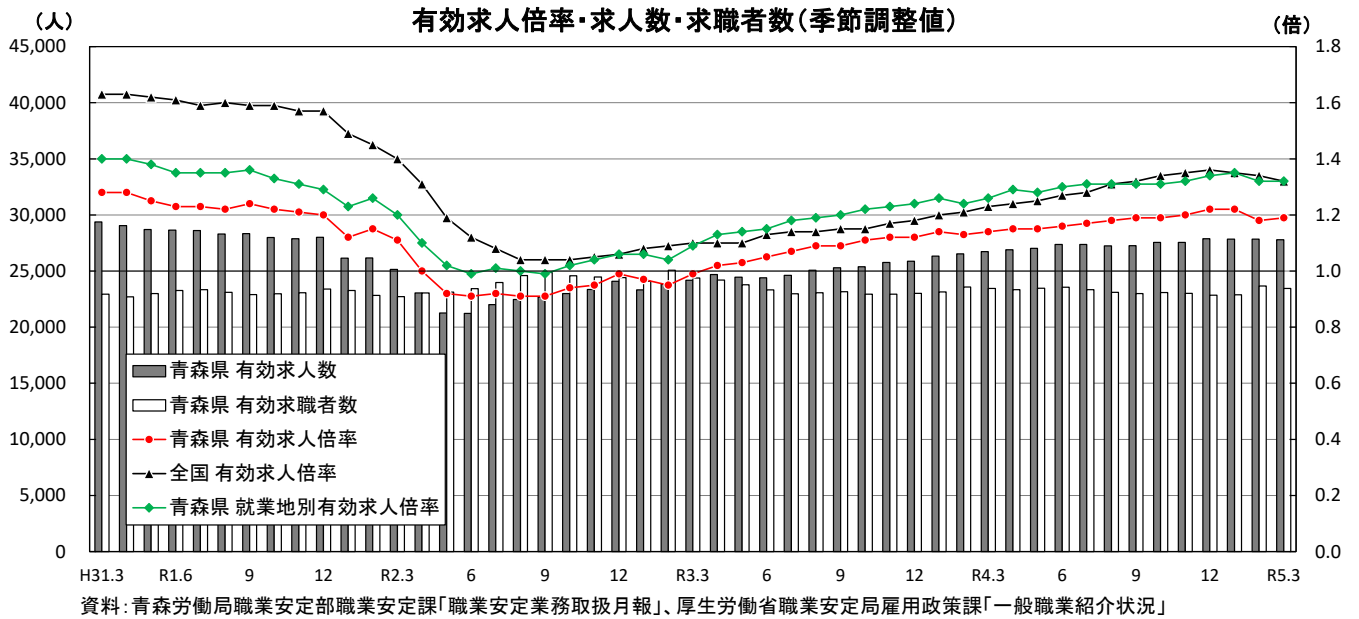
	実 数		指数 (R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	227,190 円	271,851 円	86.9	85.4	1.2 %	1.1 %
定期給与	223,260 円	267,061 円	100.4	101.8	0.4 %	1.2 %
特別給与	3,930 円	4,790 円	—	—	—	-1.7 %
総実労働時間	140.7 時間	133.7 時間	95.5	99.0	1.4 %	2.7 %
所定内労働時間	132.3 時間	123.7 時間	95.9	98.3	2.2 %	2.7 %
所定外労働時間	8.4 時間	10.0 時間	89.4	108.7	-8.7 %	2.1 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂しています。
6. 全国数値は令和5年2月分速報値です。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

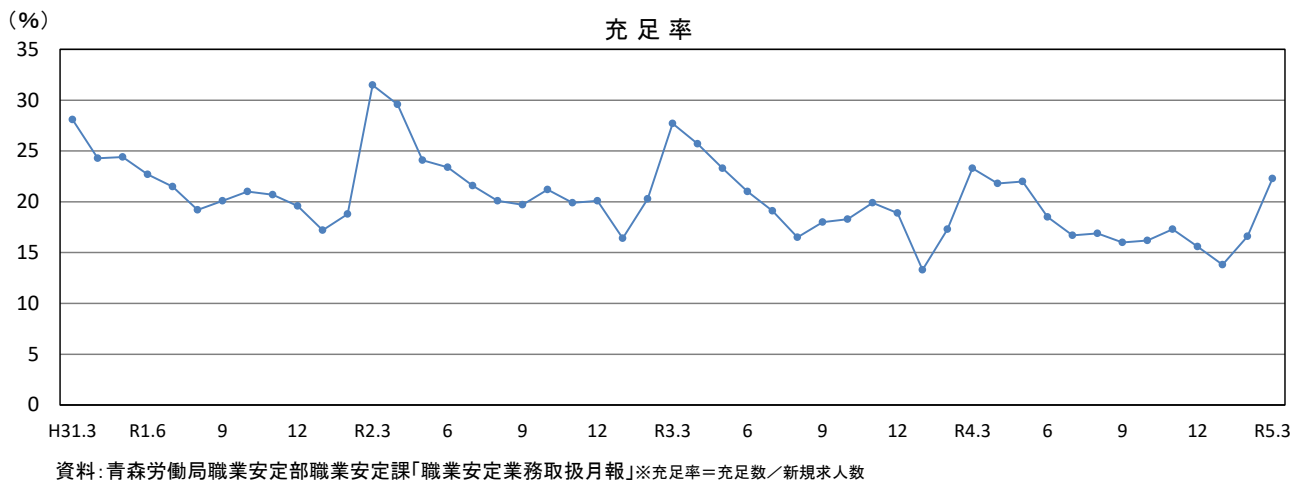
## (2-2-2) 有効求人倍率

令和5年3月の有効求人倍率（季節調整値）は1.19倍となり、24カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.32倍となった。



### (参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和5年3月の充足率は22.3%で、前年同月を1.0ポイント下回った。



## (2-3) 物価

令和5年3月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が105.4となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は104.9となり、前月と比べ0.6%の上昇、前年同月と比べ2.9%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は103.5となり、前月と比べ0.8%の上昇、前年同月と比べ4.1%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、家具・家事用品などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ3.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、住居などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

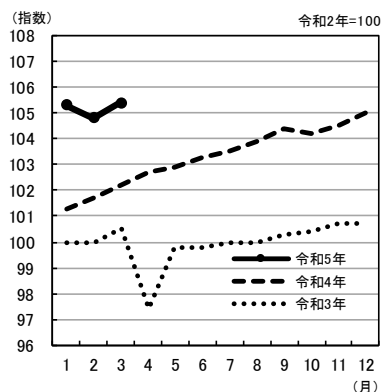


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

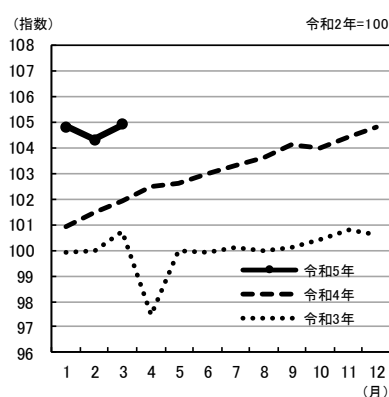
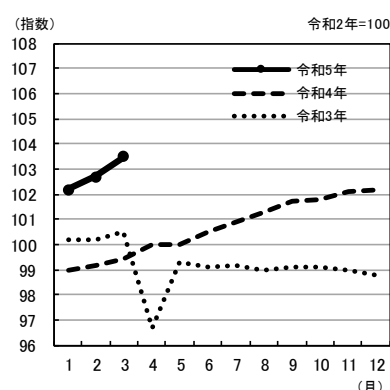


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

### 10大費目指数の動き

(令和2年=100)

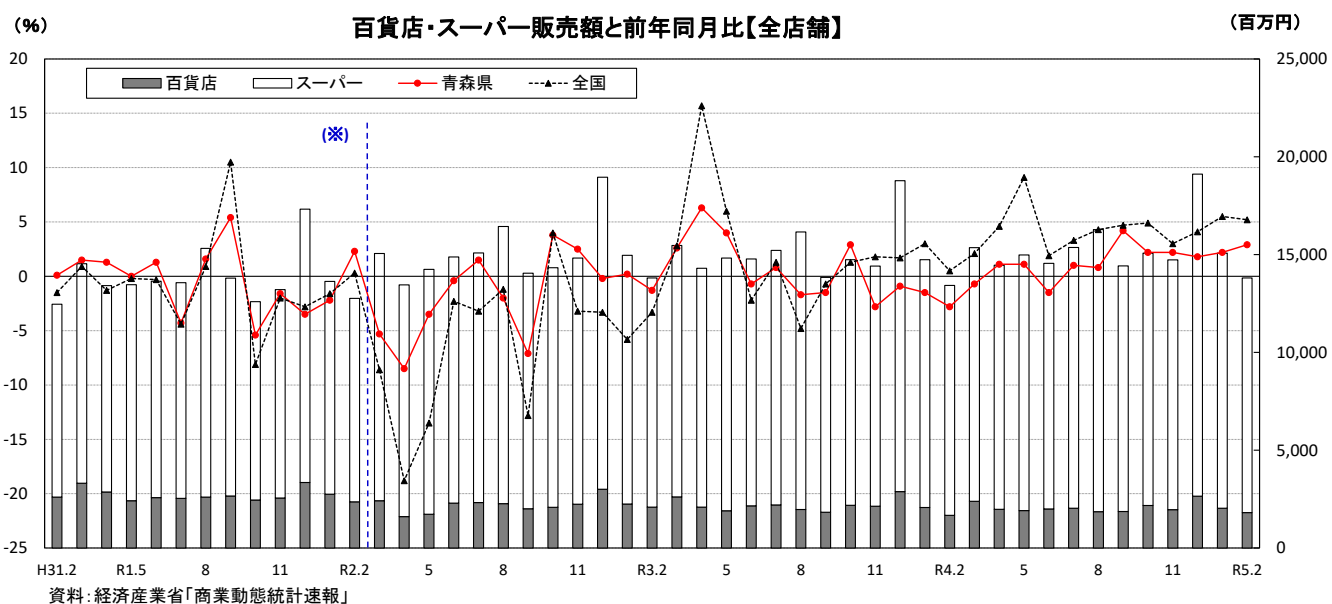
	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	水道	熱道	家具・家事用品	被服	履物	保健	健康	交通	通信	教育	教養	諸費
当月指数	105.4	104.9	103.5	101.1	110.9	114.6	104.1	114.4	107.5	104.6	99.3	94.0	99.3	94.0	99.3	103.2	102.7		
前月比(%)	0.5	0.6	0.8	0.6	0.8	▲0.4	0.2	▲0.3	3.8	2.5	0.3	0.4	0.0	1.0	▲1.2				
寄与度	—	0.57	0.63	0.38	0.24	▲0.02	0.05	▲0.03	0.15	0.07	0.01	0.05	0.00	0.07	▲0.07				
前年同月比(%)	3.1	2.9	4.1	3.0	7.0	5.9	2.9	▲4.5	6.7	6.1	1.8	2.0	0.1	2.1	0.8				
寄与度	—	2.77	3.44	1.85	1.99	0.29	0.62	▲0.52	0.26	0.18	0.07	0.25	0.00	0.16	0.05				

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

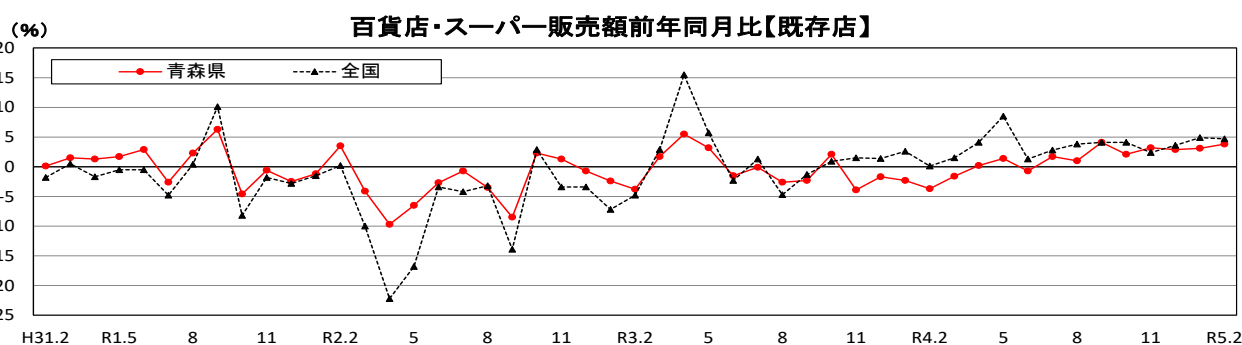
## (2-4) 個人消費

### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額 ※更新なし

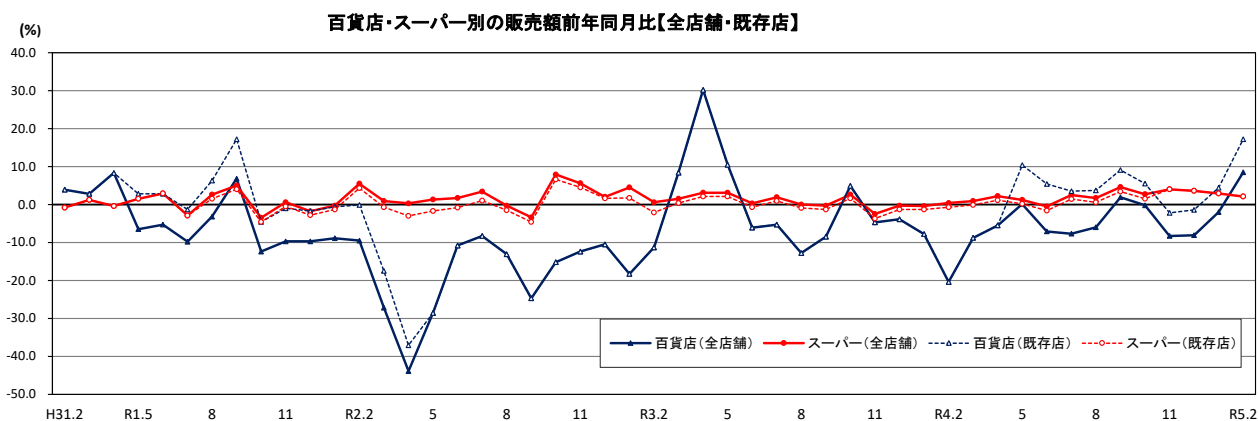
令和5年2月の百貨店・スーパー販売額は、138億円で全店舗ベースが前年同月比2.9%増(平成31年同月比1.1%増)となり、8カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.8%増となり、8カ月連続で前年同月を上回った。



※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。  
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

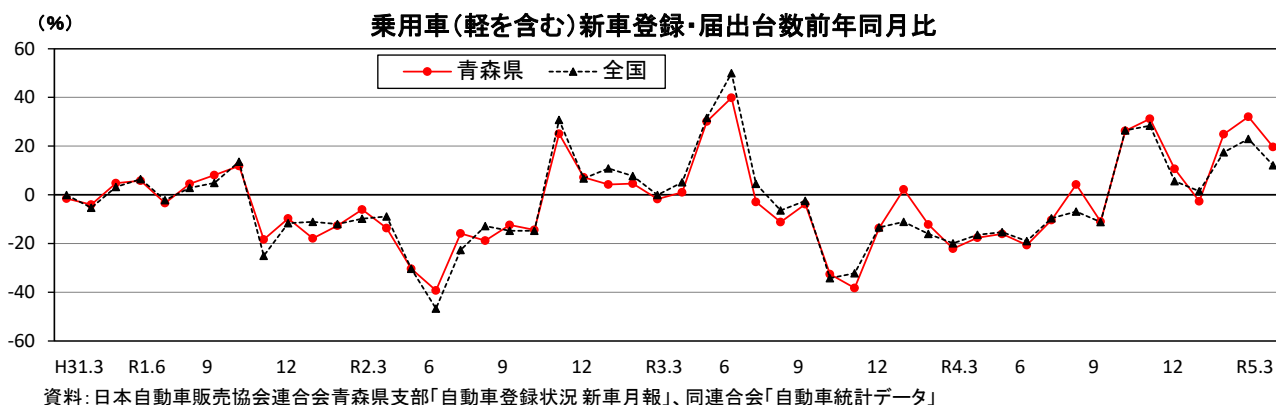


※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。  
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



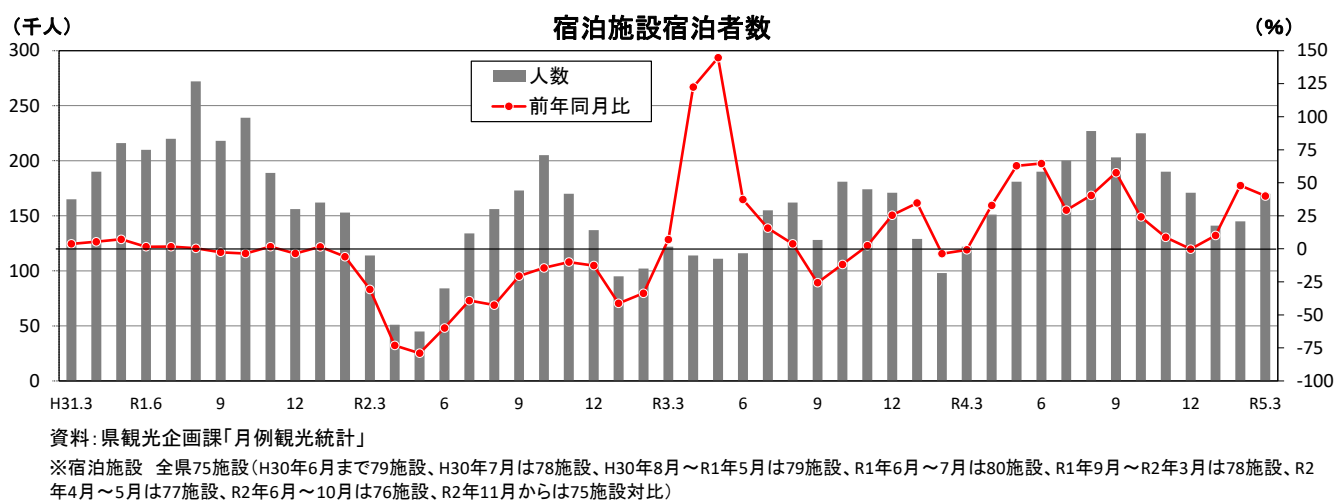
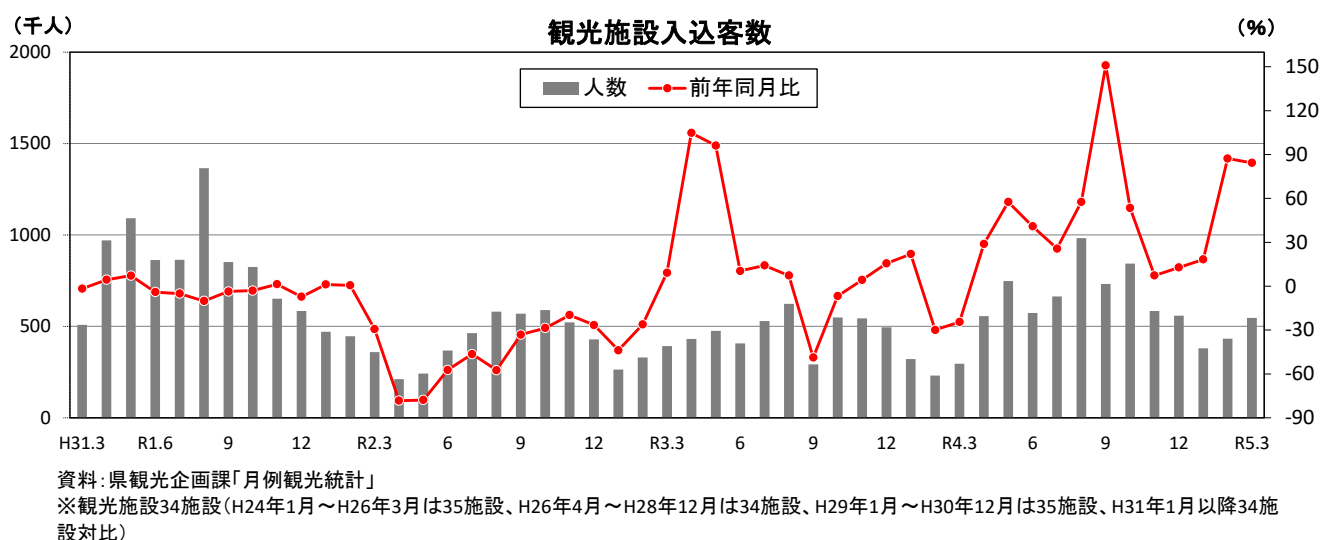
## (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和5年3月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は5,031台で、前年同月比19.6%増(平成31年同月比14.0%減)となり、3カ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車及び軽乗用車のいずれも増加したことによる。



## (2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和5年3月の主な観光施設の観光入込客数は、54万6千人で前年同月比84.3%増(平成31年同月比7.3%増)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、17万人で前年同月比40.0%増(平成31年同月比3.1%増)となった。観光入込客数は12カ月連続で前年同月を上回り、宿泊者数は3カ月連続で前年同月を上回った。

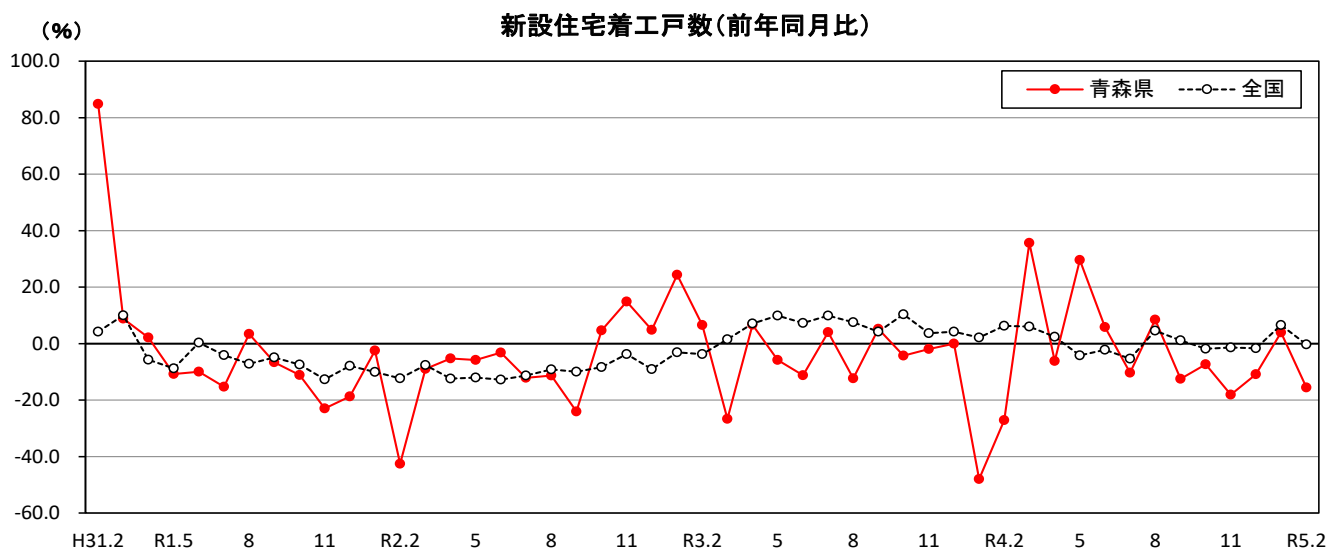




## (2-5) 建設

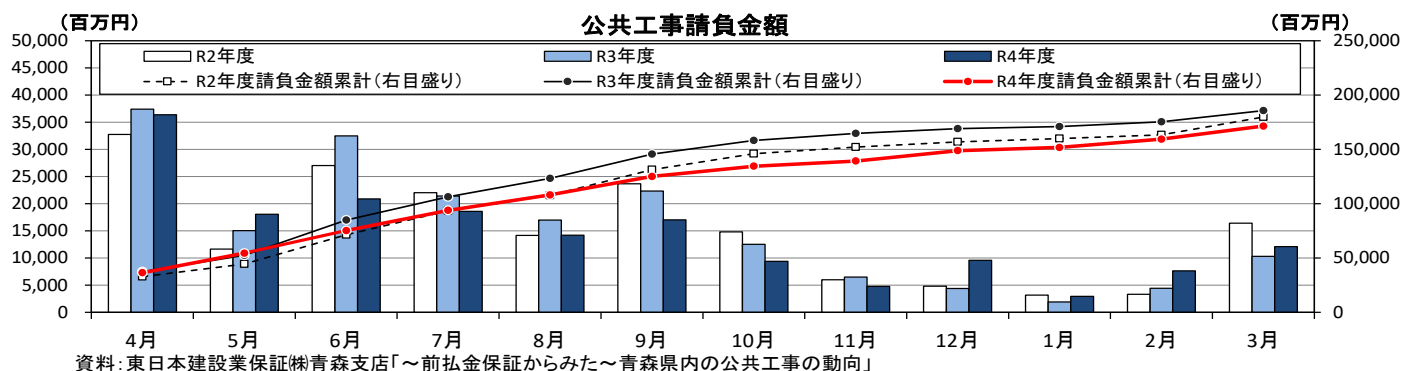
### (2-5-1) 住宅建設 ※更新なし

令和5年2月の新設住宅着工戸数は179戸で、前年同月比15.6%減となった。貸家、給与住宅、分譲住宅が減少したことによる。



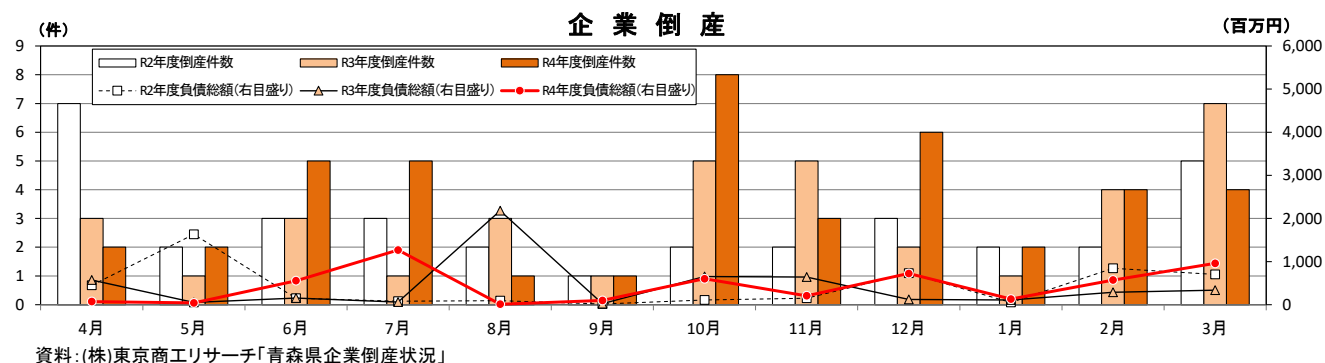
### (2-5-2) 公共事業

令和5年3月の公共工事請負金額は120億8,500万円の前年同月比17.5%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。



## (2-6) 企業倒産

令和5年3月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比42.9%減となった。負債総額は9億5,900万円の前年同月比183.7%増となった。



### (3) 青森県景気動向指数

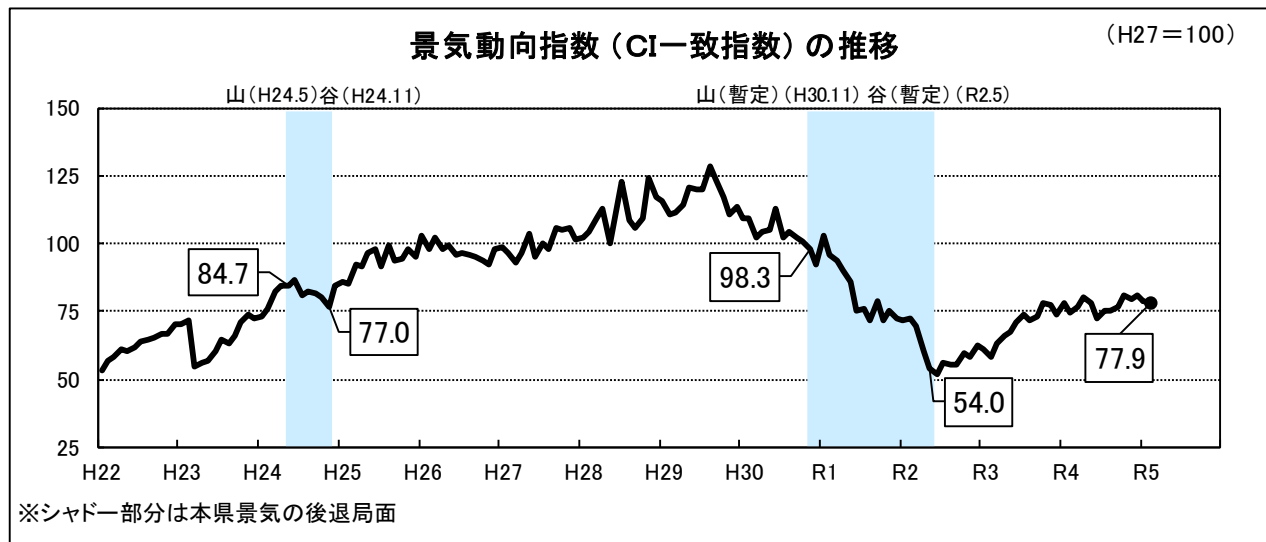
令和5年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数109.7、一致指数77.9、遅行指数95.5となった。

先行指数は、前月を1.4ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を1.1ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を1.3ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

2月の一致指数は、雇用、流通関連の指標がマイナスになったことから下降した。



● 個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新規求人倍率（全数）	1.80	2カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-4.66	2カ月ぶり
乗用車新車登録届出数	1.62	2カ月連続	日経商品指数（42種）	-2.60	3カ月連続
生産財生産指数	1.35	4カ月ぶり			
中小企業景況DI	0.85	3カ月連続			
建築着工床面積	0.43	2カ月ぶり			
新設住宅着工床面積	0.02	3カ月連続			
<b>一致系列</b>					
所定外労働時間指数（全産業）	1.98	3カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-3.23	2カ月連続
鉱工業生産指数	0.30	2カ月連続	輸入通関実績（八戸港）	-0.37	4カ月連続
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.22	2カ月連続			
投資財生産指数	0.03	3カ月連続			
<b>遅行系列</b>					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	2.71	2カ月連続	常用雇用指数（全産業）	-1.85	3カ月ぶり
公共工事請負金額	0.51	2カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-1.79	2カ月連続
			有効求職者数（全数）（逆サイクル）	-0.47	2カ月連続
			りんご消費地市場価格	-0.22	2カ月連続
			県内金融機関貸出残高	-0.10	2カ月連続
(参考) 青森県景気動向指数（DI）					
先行指数	50.0%	（3カ月連続で50%を下回った後50%となった）			
一致指数	50.0%	（4カ月連続で50%を上回った後50%となった）			
遅行指数	42.9%	（5カ月ぶりに50%を下回った）			

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和5年4月期）

現状判断DIは、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きを見せていることに加え、マスクの着用が個人の判断となったことや、人の動きが活発になり宴会や各種イベントが開催されるようになってきているといった声があり、前期比10.2ポイント上昇の58.5となった。

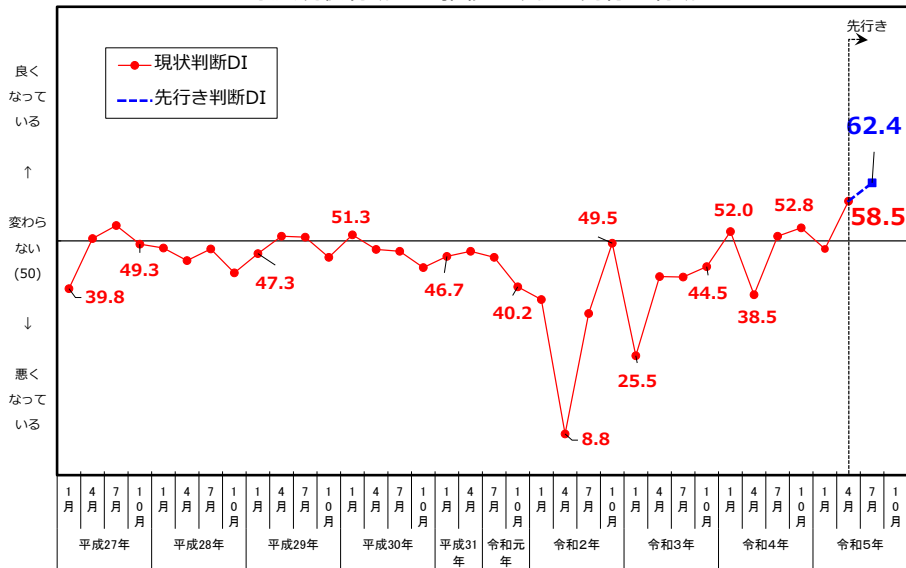
先行き判断DIは、依然として続く原油、原材料、光熱費等の価格高騰や物価上昇の影響による消費低迷が懸念されるといった声があったものの、祭りや各種イベントの開催による県内外からの観光客の増加や、インバウンドの増加を期待する声があり、現状判断DIと比較して3.9ポイント上昇の62.4となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を上回った。

（調査期間 令和5年4月3日～4月24日 回答率 97%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

前期調査と比べると、「良くなっている」が1.2ポイント上昇、「やや良くなっている」が12.4ポイント上昇、「変わらない」が6.0ポイント上昇、「やや悪くなっている」が12.6ポイント低下、「悪くなっている」が6.9ポイント低下となった。全体では58.5となり、前期から10.2ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。判断理由では、3カ月前と比べて、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きを見せていることに加え、マスクの着用が個人の判断となったことや、人の動きが活発になり宴会や各種イベントが開催されるようになってきているといった声があった。一方で、依然として続いている原油、原材料、光熱費の価格高騰や、相次ぐ各種商品の値上げによる個人消費の悪化を懸念する声も多くみられた。

前期調査と比べて、全ての地区で上昇し、全ての地区で景気の横ばいを示す50を上回った。

#### ● 3カ月後の景気の先行き判断

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が3.0ポイント上昇、「やや良くなる」が1.0ポイント上昇、「変わらない」が2.0ポイント上昇、「やや悪くなる」が4.1ポイント低下、「悪くなる」が2.0ポイント低下となった。全体では62.4となり、今期調査の現状判断DIと比較して3.9ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を上回った。判断理由では、行楽シーズンの訪れとともに祭りや各種イベントの開催による県内外からの観光客の増加や、インバウンドの増加を期待する声があった。一方で、依然として続く原油、原材料、光熱費等の価格高騰や物価上昇の影響による消費低迷が懸念されるといった声があった。

今期調査の現状判断DIと比べて、下北で低下したものの、全ての地区で景気の横ばいを示す50を上回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	全国旅行支援やJRのお得な切符、水際対策緩和、チャーター機、クルーズ客船などもあり入館者数が増加した。特に3月はオープン以降の3月で一番の入り込み数となった。(観光名所等=東青)
○	飲会店向け商品が昨年の倍で動いている。家庭用商品も昨年並みの動き。(卸売業=東青)
○	光熱費の高止まりや相次ぐ食料品、日用消耗品等の値上げにより、個人消費は依然として低迷の状態にあると見受けられますが、マスク着用が個人判断となったことをはじめ、コロナによる生活、行動制限が緩和しつつあり、特に旅行・観光需要を中心に景気は幾分か上向きになっているように感じられます。(家電量販店=東青)
○	コロナ感染症が落ち着いてきたことから、人流が増加傾向であり往来が活発になっているように見える。(ガソリンスタンド=県南)
○	街に人の姿が増えた。飲み会などの頻度も増加し、以前よりは経済が少しずつ回っているように感じる。(商店街=津軽)
○	団体旅行の動きがある。(旅行代理店=津軽)
○	新型コロナウイルスの感染状況も改善、マスク着脱の議論も盛ん、ホテルで大人数での会合も徐々に再開し、夜の街のにぎわいも戻りつつある。また春先の旅行シーズンに人の動きもはっきりと見えるようになってきた。正常に戻りつつある感覚となった。(飲料品製造=県南)
□	値上がり品目の増加、社会情勢不安などによる消費意欲の低迷が続いている。(新聞社求人広告=東青)
□	客数は少し多い気がしますが、値上げが多い為客単価は下がっている気がする。(コンビニ=東青)
□	物価高が影響し、利益が生めない。(設計事務所=県南)
□	前四半期も今四半期も前年比トントンでほぼ同じです。コロナが落ち着いてきたが、諸物価が値上がりしているため、当店のようない商品に回せる消費額が減っているように感じる。(一般小売店=津軽)
△	値上げによる買い控え。(食料品製造=津軽)
△	食材の高値のせいか、来店期間が若干伸びている様に感じる。(美容院=県南)
×	個人消費が悪化している上、コロナ過の制約が払しょくされているにも関わらず人流は今一つといった状態。全ての原因は物価の上昇にあると感じています。つまり人々の懐具合に余裕がなさすぎるといえる面が大きいのでしょう。(タクシー=東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	三社大祭、七夕、花火大会など、イベント等の催しがあり、帰省のお客様も増え、売り上げが上がるかと期待しています。(レストラン=県南)
○	5/8～コロナウイルス対策の緩和、観光・イベント等による外出の増加が見込まれる為。(百貨店・スーパー=東青)
○	今後は花見やアウトドア等をはじめ、行楽シーズンが訪れるとともに、コロナが第五類に引き下げとなることもありこれまで中止しないし規模縮小としていたイベントや各種行事はコロナ以前同等の規模まで回復すると見込まれます。これに伴い、出足増加による経済活動の活性化が見込まれ、物価高は依然として私生活を圧迫しつつも、景気は上昇するものと予測されます。(家電量販店=東青)
○	コロナが収束方向にあり、だんだん暖かくなってきていることから、今後も外出等の増加が予想され、それに伴う売り上げ増加が予想される。(ガソリンスタンド=津軽)
○	旅行支援引きが6月末まで延長となり、宿泊客の増加が見込まれる為。(レストラン=津軽)
○	自動車生産に関しては、部品調達遅れが徐々に回復傾向にあることと、国内向け生産調整がとられたことで、自動車の供給にも兆しが見えている。(乗用車販売=県南)
○	政府がイベントの開催制限を撤廃するなど、イベント開催に対する制約などが無くなったため。(新聞社求人広告=県南)
□	人の動きは一層活発になると予想されますが、商品価格の高騰(物価高)が消費行動への大きな懸念材料と感じています。(商店街=東青)
□	新型コロナウイルスがようやく収束しつつあり、人やモノの動きは回復しはじめたように見えるが、一方でさまざまな製品、サービスの値上がり、燃料価格の高止まりが当面続き、プラスマイナスゼロのような状況が続くのでは。賃金、収入の増加は値上がり分を補うにはほど遠い印象があり、苦しい状況が続くと思う。(新聞社求人広告=東青)
□	物価上昇による購買力への圧迫がまだ下押しされている。(家電量販店=津軽)
□	物価高等の経済への影響は継続。(紙・パルプ製造=県南)
□	まだ続く値上げによる物価高、電気料の値上げが控えているため支出を抑える傾向ある一方、確実に外出機会が増えてくるため関連支出も増。(百貨店・スーパー=下北)
△	人口減少、人手不足。(コンビニ=県南)
×	戦争は長期化、原油は高止まり、(他国は)金利大幅上昇。加えて日本は変革に乏しく、税や社保の負担ばかり増える。世界的に投資冷え込みの状況である。(電気機械製造=県南)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」